1. 都内ホテル客室における近年のツメダニ科の動向

○佐々木　健・元木　貢
(アペックス産業㈱)

【背景】 ホテルにおける宿泊客からのクレームには「ダニに刺された」という痒み被害の訴えがある。そこで当社ではホテルからの痒み被害調査依頼を受け、ダニ類の生息調査を行っているが、吸血性または刺咬性のダニ類が検出されず、痒み被害の原因が分からないことが多い。しかし、検体の中には刺咬被害を引き起こす恐れのあるツメダニ科が検出されることがあり、ダニ類が痒み被害の原因とみられる事例も散見された。そこで今回、これまで当社で行ってきたホテル客室におけるダニ類の生息調査結果から、ツメダニ科が原因と疑われるケースについて集計調査を行った。

【方法】 調査は都内のホテルA棟、B棟、C棟、D棟において、痒み被害の訴えのあった客室内の床面やベッドなどの表面を電気掃除機で吸引し、収集した細塵を検体とした。検体を飽和食塩水浮遊法によってダニ類を分離し、プレパラートを作成、検鏡し同定を行った。調査結果の集計は過去10年程度の結果を、検出されたダニ類についてツメダニ科とその餌となるチリダニ科を中心に整理し、出現率（総検体数に対して、対象のダニ類が検出された検体数の割合）を算出した。

【結果･まとめ】 ツメダニ科の出現率はA棟38.1%、B棟27.4%、C棟15.4%、D棟50.0%であった。チリダニ科の出現率はA棟71.4%、B棟75.3%、C棟100%、D棟100%であった。痒み被害の訴えのあった客室からは約30%程度の出現率でツメダニ科が得られ、そのツメダニ科は同室内のチリダニ科を餌として繁殖しているものと考えられる。また、ツメダニ科は床面のカーペットから検出されることが多いが、客室内のベッドマット、寝具から得られることもあり、その場合は痒み被害の原因となっている可能性が高いと考えられる。